



一昭和医科大学歯科病院の理念一

患者本位の医療
先進的医療の推進
医療人の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151 (代表)

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

水分補給時のムセ

口腔機能リハビリテーション科 診療科長補佐・准教授 伊原 良明

35年ぶりに大阪での万博が開催され、万博に参加された方々のSNSなどを多く拝見するようになり、皆様の中でも参加された方々もいらっしゃるかと思います。私自身これまで万博に行ったことが無いので、機会を作りぜひ参加したいと考えております。

大阪万博の会場でもご自身でお持ちになった水筒に、無料で水を補給できる機器を設置されているという話をニュースで拝見しました。これから暑くなる季節に向けて水分補給は熱中症や脱水の予防として、非常に重要なものです。

その際に、水分を飲んでムセするという経験をされたことがある方も多くいらっしゃるかと思います。われわれの診療科で診療を行っている摂食嚥下障害というのは、水分を飲んだ際に、むせ易くなるというのが初期症状として多く認められます。人間が生きていくうえで欠かすことの出来ない水分というのは、実は安全に嚥下することが難しい物性のものの一つです。

その理由として、水分は口から喉に移動

する際の流れが非常に早いことが挙げられます。いわゆる「ごっくん」という嚥下動作は一般的にわずか1秒以内に起こるものであり、その間に舌や喉など嚥下に関わる多くの器官が関与して嚥下動作を行います。

そのため、流れの早すぎる水分などでは、ちょっとしたタイミングのズレが誤嚥につながり、ムセが生じることがあります。むせることに対しての対応として水分にトロミを付けて流れの早さ、まとまりを調整する方法が一般的ですが、味やのど越しが変わるため、トロミを嫌がる方も多く見られます。そのような際に食事時のちょっとした姿勢や、食べ方の工夫でむせを減らせる可能性もありますので、食事時などのムセでお困りの方は是非一度ご相談いただければと思います。



- P1 巻頭言：水分補給時のムセ
- P2 診療科紹介：口腔機能リハビリテーション科
- P3 新入職員 ご挨拶
- P4 歯と口の健康週間、編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

診療科紹介：口腔機能リハビリテーション科

口腔機能リハビリテーション科 診療科長補佐・准教授 伊原 良明

口腔機能リハビリテーション科は昨年で設立20周年を迎えました。現昭和医科大学名誉教授である高橋浩二先生が中心となり、口腔癌術後の摂食嚥下障害や構音障害に対する「リハビリテーション」を行う診療科として口腔リハビリテーション科が設立されました。その後、話す、食べる、飲むなど口腔の「機能」に対する診療を行っていることをより患者さんに伝わりやすくするため、2022年に現在の「口腔機能リハビリテーション科」へ科名が変更となりました。

当科には現在、教員、大学院生合わせて14名の歯科医師、2名の言語聴覚士、そして1名の筋機能療法士（歯科衛生士）が所属しています。当科では主に、先に述べたような摂食嚥下障害（頭頸部癌、脳血管疾患や神経筋疾患など、さまざまな疾患に起因する患者さんを診察しています）や言語障害（頭頸部癌、口蓋裂や機能性構音障害など）を有する患者さんに対する診断、リハビリテーションや睡眠時無呼吸症候群患者に対する口腔内装置の作製などの口腔機能障害に対する診療に加え、異常習癖など口腔顎顔面の機能障害に対する診断、治療を行っています。

歯科医師、言語聴覚士、筋機能療法士など多職種が連携することにより、それぞれの専

門性を最大限に生かしながら患者さんにベストな治療やリハビリテーションを提供できるよう日々励んでいます。

また、当科は昭和医科大学歯科病院以外の附属病院でも診療を行っています。昭和医科大学病院頭頸部腫瘍センターにおける頭頸部癌患者の周術期口腔管理（創部保護シーネの作製や放射線治療前の抜歯なども行っています）、昭和医科大学烏山病院では、精神疾患患者に対する窒息予防目的の食形態アセスメントの実施や昭和医科大学横浜市北部病院ではミールラウンドも行っています。

附属病院でも医師（耳鼻咽喉科医やリハビリテーション科医）、言語聴覚士、管理栄養士や看護師など多職種が連携することにより質の高い医療を提供するため一体となり精進しております。

ムセる、のどに引っかかるなど飲み込みに関してお困りの方、ろれつが回らない、言葉がうまくしゃべれないなど言葉の問題でお悩みの方、睡眠時の無呼吸を指摘されている方は歯科病院のみならず関連病院も含め是非一度当科にご相談ください。よろしくお願いいたします。



附属病院における耳鼻科医と連携した検査の様子



口腔機能リハビリテーション科スタッフ

新入職員 ご挨拶

令和7年4月より、助教（歯科）として歯内治療科で診療を担当させていただくことになりました、奈良麻衣と申します。3月に大学院博士課程を修了し、本年度より入職いたしました。

これまで大学院では、お口の中にすむ細菌と歯の病気との関係について研究を行ってまいりました。今後は、これまでに培ってきた知識や経験を活かし、患者さん一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、丁寧で思いやりの

ある診療を心がけてまいります。

歯の治療は、不安や緊張を感じる場面も多いかと思いますが、少しでも安心して通っていただけるよう、親しみやすい雰囲気づくりと、わかりやすい説明を大切にしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

歯内治療科 助教（歯科） 奈良 麻衣

この度、昭和医科大学歯科病院歯周病科に入局いたしました丸山桜子と申します。

学生時代より歯周病と全身の健康の関連について学び、卒後は一度開業医に勤務しました。しかし、その予防や治療の重要性を実感し、より専門的な知識と技術を深めたいと考え、大学病院で研鑽を積むこととしました。

現在は、山本教授をはじめ診療科の先生方のご指導のもと、日々貴重な臨床経験を積んでおります。歯周病治療は患者さん一人ひと

りの症状や生活背景を理解し、継続的に取り組むことが大切だと実感しております。わかりやすい説明と丁寧な診療とを心がけ、信頼される歯科医師を目指して精進してまいります。

今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

歯周病科 助教（歯科） 丸山 桜子

本年4月に保存修復科に入職いたしました中崎由奈と申します。

保存修復科では、「最小限の侵襲による歯の修復治療」MID（Minimal Intervention Dentistry）という概念をもとに、むし歯の予防・治療・管理や審美修復治療、歯のホワイトニングなどを中心に行っています。

審美修復治療やそうした治療に用いられる材料に興味があり、できるだけ歯を保存し、美しい形態に修復できる技術を経験豊富で研

究熱心な先生のもとで学びたいと思い入職しました。

患者さんに寄り添い、自然で美しい治療を提供できる歯科医師を目指して努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

保存修復科 助教（歯科） 中崎 由奈

歯と口の健康週間

歯科衛生室 歯科衛生士 渡邊 友梨

6月4日～10日は「歯と口の健康週間」です。令和7年度の標語は「歯みがきで 丈夫な体の基礎づくり」です。

丈夫な体の基礎をつくるためには毎日のお食事をよく噛み、お口の機能を使って飲み込むことが必要になります。よく噛むためには、お口の中を清潔に保ち、むし歯や歯周病を予防することが大切です。

また、お口の機能は「食べる」「飲み込む」「話す」「呼吸する」「表情をつくる」「味わう」「唾液を分泌する」など多くの機能があり、人と

のコミュニケーションにも重要な役割を果たします。いつまでも丈夫な歯と身体で人生を豊かに過ごせるように、ぜひ日々のブラッシング習慣やお口の健康について目を向けてみてください。

当院では患者さんに合わせたブラッシング方法の提案や、専門的な器械を使用したクリーニングやお口の機能の検査も行い、お口の健康管理をサポートさせていただいています。詳しくは、歯科医師や歯科衛生士にお尋ねください。



歯科衛生士による歯磨き指導の様子



日本歯科医師会ホームページより

お知らせ

昭和医科大学では、全施設一丸となって節電対策に取り組んでおります。

当院でも2025年5月1日～10月31日の期間、クールビズを実施しています。気温に合わせた

柔軟な服装（ノーネクタイ・ノージャケット等）で就労いたします。皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

事務課管理係

編集後記

暖かい陽気が続くようになり、ついこの間までは上着を重ねていたはずが半袖で来院される患者さんを多くお見受けいたします。しかし未だに東京でも朝晩と昼の寒暖差もあり体調管理が難しいですね。皆様も体調を崩されないようご自愛ください。また、お口の中の管理も同様気を付けていきましょう。ぜひ、歯科病院をご活用ください。

(A.N)